



# マダイ

## 太平洋中部海域

主な漁業と漁期

成魚 定置網：ほぼ周年  
船曳網：秋～春  
釣り：ほぼ周年

### 生態

北海道を除く、日本沿岸の水深30～200mの岩礁や砂礫の底層に分布します。

#### ●分布・回遊

若齢期の移動は少ないと考えられていますが、成長に伴い、餌を求めての回遊や深淺移動がみられます。

#### ●産卵期・産卵場

産卵期：4～6月。

産卵場：産卵は水深20～50mの岩礁や砂質の海域。

#### ●成長・成熟

寿命は10歳以上です。概ね3歳で全長30cmとなり、成熟します。



マダイの受精卵

右写真は孵化後20日のマダイ稚魚です。マダイ稚魚は陸上水槽で約2ヶ月育てられ、海上の網生簀に移されます。



浮遊期の稚魚

海上の網生簀内で、全長6cm以上に育てられた稚魚が海域に放流されます。

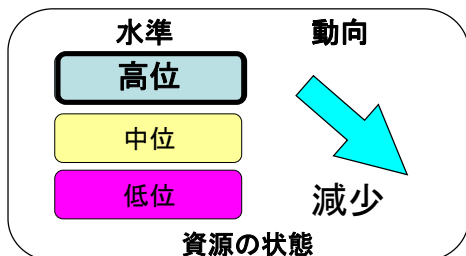


放流サイズの稚魚

漁獲可能サイズ(全長17cm、体重100g)に達するには約1年かかります。

## 漁業・資源動向

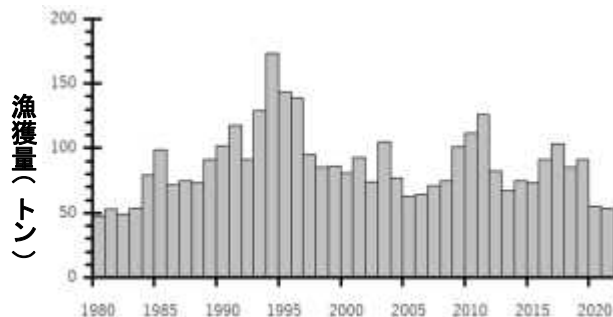
【資源】



静岡県を含む千葉県から三重県までの太平洋中部海域では、毎年100万尾程度のマダイ種苗が放流されています。太平洋中部海域の資源動向は高位で横ばいと評価されていますが、静岡県の資源動向は、高位で減少と評価しました。

【漁業】

- 1 定置網、船曳き網、釣りなどによって漁獲されます。主体は、定置網と船曳き網による漁獲で、3月から5月にかけて多くなります。
- 2 県内の漁獲量は1966年以降、約50～170トンの間を変動しながら推移しています。1970年代にはマダイの漁獲量は50トン以下に落ち込みましたが、1980年代から毎年100万尾の稚魚が放流されるようになると、漁獲量は100トンを超えるようになりましたが、近年では50トン程度で推移しています。
- 3 マダイは、遊漁の対象種としても人気が高く、遊漁による漁獲量は漁業による漁獲量の2倍以上にのぼると推定されています。



静岡県のマダイ漁獲量の推移

【種苗放流】

資源増殖を目的に、地域の栽培漁業推進協議会などにより、種苗生産施設で育てられた全長約6cmの稚魚が、毎年100万尾の規模で放流されています。

【資源管理】

小型魚を保護する目的で、漁業者は全長17cm以下の個体は水揚げせずに再放流するという自主管理に取り組んでいます。

《国の資源評価調査報告書へのリンクはこちら》

[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/trends\\_2021\\_23.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/trends_2021_23.pdf)

担当者の一言：マダイは魚の王様、DHAの含有量も多く、刺身、椀物、鯛飯などで美味しくいただけます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場

0558-22-0835